

いのち

生命を生みだす母親は 生命を育て 生命を守ることをのぞみます

2011年
第57回

日本母親大会 in 広島



草の根の母親・女性の願いや要求を語り、あゆみつづけて57年
今年の夏、日本母親大会が被爆地・広島でひらかれます
みんなでさそいあってあつまりましょう

第1日目

全体会 7月30日 土
12時～16時30分

- 広島県立総合体育館（グリーンアリーナ）
- 文化行事、構成劇、運動報告など多彩な催しがあります。

● 記念講演

湯浅 誠さん (反貧困ネットワーク事務局長)

「**貧困なくし、人間らしく
生きられる社会をつくる**」(仮題)



(Photo by 中川賢俊)

第2日目

分科会 7月31日 日
10時～15時

- 広島工業大学専門学校
- 広島国際会議場（フェニックスホール）
- 中国新聞社ホール・会議室
- 広島県立総合体育館小アリーナ・会議室他

子どもと教育、くらし、権利、労働、平和と民主主義、女性の地位
向上、母親運動など、さまざまな問題をテーマ別に話し合います。

▶ 両日とも大物産展・書籍バザールがあります

主催 ● 第57回日本母親大会実行委員会 東京都千代田区二番町12-1 全国教育文化会館内 TEL 03-3230-1836 FAX 03-3230-1837

開催 ● 広島県母親大会実行委員会 広島県広島市中区大手町5-16-18 パルビル内 TEL・FAX 082-243-1565

協力 ● 中国・四国ブロック各県母親大会実行委員会 (鳥取・岡山・島根・山口／香川・徳島・愛媛・高知)

母親が変われば社会が変わる！

母親運動のあゆみは日本の女性運動のあゆみです

母親大会のはじまり

—「日本婦人の訴え」から
「世界母親大会開催へ」

1954年、アメリカの水爆実験によってマグロ漁船員の久保山愛吉さんが亡くなりました。広島、長崎につぐ三度目の被爆に母親たちは怒り、平塚らいてうら5人は全世界にむけ「水爆禁止のための訴え」を送り、1955年スイスのローザンヌで世界母親大会の開催が決まりました。それに先立ち6月、第1回日本母親大会が東京で開かれ、日本各地の炭鉱や農村からも、1円募金などで送り出された2000人の母親が集まりました。世界大会には、河崎なつ団長をはじめ、あらゆる分野から代表を選び、14人が参加しました。はばひろい母親運動の出発点です。

母親大会のあゆみ

—くらし・平和を守って
たくさんの母親・女性たちが行動

帰国後の報告会は、全国各地で数千回開かれ、各地に母親運動が広がりました。そして母親・女性たちの願いをかかげ、子どもたちを小児マヒから守るための生ワクチンの緊急輸入、学校給食の脱脂粉乳を生乳に、ポストの数ほど保育所を、高校全入や私学助成など教育問題、物価値上げ反対、地球環境・公害問題など母と子をとりにくくさまざまな問題にとりくみ、貴重な成果をあげながら、57年余をあゆみつづけてきました。

世界母親大会によせられたギリシャの詩人ペリディス夫人の詩の一節「生命（いのち）を生みだす母親は 生命を育て 生命を守ることをのぞみます」は、今日まですべての母親・女性の心をとらえ、連帯のスローガンになっています。

広島にあつまりましょう

今年の日本母親大会は、被爆地広島で開催されます。開催地広島県では、中国（鳥取・岡山・島根・山口）四国（香川・徳島・愛媛・高知）の各県と一緒に全国のみなさんを迎えようと、全力で準備をすすめています。1日目は47都道府県からの参加者が一堂に集まる全体会で、記念講演は湯浅誠さんです。2日目は原爆慰霊碑めぐりや被爆の実相を学ぶなどの企画を取り入れ、40余のテーマに分かれての分科会です。

母親大会はだれでも参加できる大会です。人間としてみんなが健やかに暮らしていける社会をねがって、互いに学びあい語りあいましょう。

66年前、1発の原子爆弾によって焼きつくされた広島。詩人の峠三吉が「にんげんのよのあるかぎり くずれぬへいわを」と叫び核兵器廃絶へのたゆみない運動をつづける広島で、はじめてひられる大会です。北から南から、世代をこえてさそいあい、よびかけあってあつまりましょう。